

みのの EDO

東京 笠原情報誌 MAIL版

特集

タイルを楽しむお風呂

寒い時期はお風呂で温まりたいもの。そこに素敵なタイルがあれば、なお嬉しい。ここ数年にオープンまたはリノベーションしたタイルが見どころのお風呂を紹介します。



U-BASE CAMP
BATH&SAUNA
(神奈川県海老名市)

「名古屋モザイクデザインワード2024」で非住宅部門造形物賞を受賞。使用したのは、クラッシュタイル(割りタイル)で、山肌や木はマット(ツヤなし)、手前の植栽はツヤがあり葉や花などの模様が入ったもの。ちなみにもう一つの浴室は「月」がテーマで、地球が生まれたビッグバンをスプレー缶で描いた。



施主 ウェインズトヨタ神奈川株式会社 企画 株式会社電通ライブ・株式会社D-LINE
ディレクション 株式会社電通ライブ・ネジアーキテクト アーティスト(施工) emi tanaji
施工サポート tilestyle深大寺 施工協力 株式会社泉宣宏社

インタビュー

タイル×ペンキで 新しい表現を追求

emi tanajiさん

現場の空気や光を感じながら

2024年にオープンしたU-BASE CAMP海老名は街中でキャンプやバーベキューを楽しめる施設。敷地の一角には、アートを取り入れた温浴施設を備える。

浴室の壁面には山々が連なる大自然、動物たちが描かれている。メインの山と木はタイルで表現され、その質感が壁画にリズムをもたらす。お湯に浸かると、動物たちと目が合って、ほのぼのした気分になってくる。

壁画を手掛けたのはアーティストのemi tanajiさん。「太陽」のテーマで制作依頼があり、太陽は生命の源であることから、生命の息吹を感じさせる大自然を描いた。タイルを使った理由は「土っぽさを表現したかったから」。山肌は淡いピンクや青、茶色のタイルを組み合わせた。「実際の山にはない色を使うことで、銭

湯が好きな人は富士山、故郷の山など、自分の好きな山を思い浮かべられるようにしたかったんです」

施工は職人のサポートを得た。アート作品として、あえてタイル張りの基本に沿わなかった部分もある一方、他は職人の技術を学ばせてもらったと話す。タイルはtanajiさんが一枚一枚、現場で手作業で張った。「空気の流れや、窓からの光の入り方を現場で感じながら張りたかったんです」。タイルの配色もその場で決めた。作業で大変だったことはあるだろうか。「目地材は硬化するので、決まった時間で使い切る必要があります。その間、目地材を載せた板を片手で持

DATA

所在地:神奈川県海老名市新田3290-1
定休日:第1、第3水曜(水曜が祝日の場合は木曜休み)
利用時間:10:00~22:00(最終受付 19:00)
料金:大人1500円、子ども(小学生)500円
※タオルセット無料貸出



さんだるきっちん(東京都杉並区)

富士山の雲海とカウンターは同じ白色のタイルを使用。雲海でお酒を酌み交わすイメージに。

歴史の宿 金具屋(長野県・渋温泉)

貸切風呂「斎月の湯」の天井以外、壁の富士山から床の石張りまでを手掛けた。背景の25ミリ角のタイル張りは職人が担当。基本のタイルの水平垂直、クラッシュタイル周りをきちんと納めている。これによりアート感覚で制作した富士山を引き立てるとともに、空間全体の完成度を高めている。



ちますが、重くて腕が限界でした。腕が痛いから熱い、熱いから無に変わる瞬間を知りました(笑)」「職人さんはその部分の筋肉が育っているんですね」と感心する。

始まりは飲食店の壁画制作

これまで老舗旅館の金具屋(長野県・渋温泉)ではタイル壁画、銭湯の改良湯(東京都渋谷区)では外壁の壁画を手掛けている。

元々銭湯絵師になりたかったが、銭湯が年々減少する中、生計を立てるのは難しいと断念。アーティストとして壁画を描いたり、デザインを提供したりする中、銭湯やお風呂の仕事を手掛けるきっかけになったのが、2015年の飲食店の内装の仕事だった。

「銭湯で裸の付き合いをするような、アットホームなお店にしたいという依頼でした。お風呂といえばタイル、銭湯といえば富士山。オリジナル性を出したいと思って『三丁目の夕日』をイメージして夕日に照らされた赤富士をタイルで描きました」

タイルを使った経験はなく、内装会社に「タイルを勉強したい」と頼み、赤色の様々なタイルを集めるためにショールームを巡った。「楽しい材料を見つけた!という感じでしたね」

手掛けた店舗は2号店で、1号店のお客さんと一

緒に大きめの床材のタイルを割り、目地入れの作業も行った。「厚みも質感もバラバラ、形もバラバラのタイルを組み合わせて富士山を作りました」。試行錯誤しながら、作業を楽しむ様子が目に浮かぶ。

タイルという素材の魅力

作品をSNSに載せたところ、老舗旅館・金具屋の主人からタイル壁画制作の依頼があった。

「9代目のご主人とは、渋温泉のアートプロジェクトを通じて友達でした。木製の貸切風呂が傷んできたので、タイルでリニューアルしたいと考えていたそうです」

宮大工が手がけた壮麗な建築に負けない作品が求められていた。職人とともに本格的なタイルの富士山を完成させたのは2018年のこと。その合間に改良湯の壁画の仕事が入る。U-BASE CAMP海老名は、飲食店の壁画を依頼してくれた内装会社からの再度の依頼だった。

「タイルの話とは少し違うかもしれませんが」と前置きし、養老天命反転地*に話が及んだ。「石が積まれていたり、カラフルで天井にトイレが貼り付いていたり、地面が斜めだったり。常識や枠にとらわれない、可能性がぎゅっと詰まった空間が面白くて。ここでの衝撃が自分の作品制作に生きています」

先日訪れたジブリパーク(愛知県)では、タイルはジブリの世界に必要な不可欠と実感した。タイルという素材の、光の反射、土の温かさ、色のつらなりに魅力を感じていると話す。

銭湯絵師への憧れの背景には、文化を継承したいとの思いがあった。今アーティストとしてそれが実現しつつある。「タイルを使った新しい表現の提案ができたらと思っています」。今後の作品に注目したい。

*養老天命反転地
アーティスト・荒川修作氏とそのパートナーで詩人のマドリン・ギンズ氏の構想を実現したテーマパーク。岐阜県養老郡に所在。

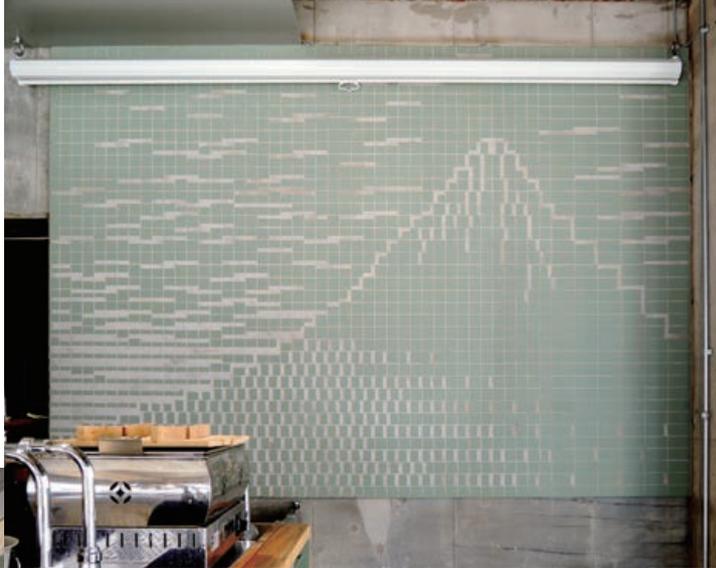
emi tanajiさん

大阪生まれ。大阪芸術大学卒業後、東京を拠点とし、全国各地で壁画やアートプロジェクトなどを手掛ける。最近は陶芸も始めた。今の賃貸の住まいはお風呂の「ページュにワインレッドのラインが入るタイル」が決め手だったとか。





外と内のつながりを持たせるため、外壁に元のタイルを剥がした跡を残した。「内部に入ると、建物がまとうタイルが増えていくのとは反対に、人は浴室で衣服を脱いで裸になります」



3種類のサイズのタイルを組み合わせ使用。細部の工夫が豊かな空間を生み出している。

カフェスペースに描かれた富士山(上)。浴室と違って写真を撮れるので、若い人がSNSにアップしてくれ、宣伝にもなっている。浴室の「あつ湯」の文字(右)。



目地で描いた富士山がお出迎え 狛江湯(東京都狛江市)

新宿から小田急線で20分ほどの距離にある狛江駅。狛江湯は駅から徒歩3分ほど、閑静な住宅街に建つマンションの1階にある。

創業は1955年で、1992年にビルに建て替え。2023年に3代目のオーナー・西川隆一さんが「近所の人だけでなく、電車に乗っているんな人が来る銭湯にしたい」という考えの下、リノベーション。設計はスキーマ建築計画が担当した。

入ってすぐの場所にあるカウンターでは、銭湯の受付を行うほか、地ビールや食べ物も提供。お風呂上がりの休憩のみならず、カフェだけの利用もできる。

ここで早々に銭湯につきものの富士山が登場。淡い緑色のタイルを使い、目地によって表現されていることに驚く。建物の奥に進み浴室に入ると、同じ色のタイルで壁と床が覆われていた。優しい色調に包まれ、安らげる空間の中、壁に描かれた「あつ湯」「炭酸泉」などの文字に目がとまる。角張った書体は楽しげで、浴室全体のアクセントとしての役割も果たす。

建物全体で統一されたタイルの色は、豊かな自然が残る狛江の良さをイメージしているという。「スパやスーパー銭湯はタイルを使わないところも多いですが、銭湯はタイルありき。文化であり、目玉でも



取材などで訪れた有名人のサインが書かれたタイル。



所々にタイルが使われている。

オーナーの西川隆一さん。「(お風呂のない時代は)銭湯はインフラだったが、今は昔の文化を伝える場所になっている。日本の文化を残せていけたら」

あると思います」と西川さん。タイルの施工は銭湯専門の職人に依頼し、カラン(洗い場の蛇口)は専門業者に発注した。銭湯文化を守りたいという思いがそこにある。

一方、タイルの使い方しかり、シンプルかつ清潔さを感じさせる空間は現代的で、カフェのような立ち寄りやすさがある。銭湯は通常男性客が多いというが、狛江湯では女性客の数が勝るといえる。今や外国人観光客や建築目当ての人も訪れる名物銭湯になっている。



一方、タイルの使い方しかり、シンプルかつ清潔さを感じさせる空間は現代的で、カフェのような立ち寄りやすさがある。銭湯は通常男性客が多いというが、狛江湯では女性客の数が勝るといえる。今や外国人観光客や建築目当ての人も訪れる名物銭湯になっている。

一方、タイルの使い方しかり、シンプルかつ清潔さを感じさせる空間は現代的で、カフェのような立ち寄りやすさがある。銭湯は通常男性客が多いというが、狛江湯では女性客の数が勝るといえる。今や外国人観光客や建築目当ての人も訪れる名物銭湯になっている。

DATA 所在地:東京都狛江市東和泉1-12-6
定休日:火曜日
利用時間:13:00~23:00
料金:大人550円、小学生200円、未就学児100円
※別料金で貸しタオルあり
サウナ+680円(貸しタオル付き)



10ミリ角のモザイクタイルが北斎の繊細なタッチを表現。ペンキ絵にする案もあったが、タイル画は白い目地が入ることで、優しい印象になると考えて決定した。鏡の下の個性的なタイルにも注目。



可愛らしい女湯のモザイクタイル画。

スケールの大きさが自慢

共栄温泉(大阪府池田市)

創業70年近い老舗銭湯で、家族経営のアットホームな雰囲気を持つ共栄温泉。2023年、男湯に葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」のモザイクタイル画を新たに設置した。荒波の向こうに端正な富士山を描いたダイナミックな作品だ。

設置のきっかけは浴槽工事のため1カ月半休業となったこと。「何かお客様に喜んでもらえることがしたい」と思案。モザイクタイル画の設置を思い立ち、多治見のメーカーを直接訪ねて発注した。

サイズは横幅4メートル。「迫力があってすごいなと思ってもらいたかったんです」と、3代目主人の廣島健司さん。元々は白い普通のタイルが張られていた場所。そこに突如大きなモザイクタイル画が現れたら、お客様も驚いたことだろう。「めっちゃカッコいいわと言ってもらえました」。

一方で女湯は?という、実は鯉を描いた絵タイルを発注していた。30センチ角のタイルを24枚を並べて1枚の絵となるもので、浴室に設置するのは危ないと判断。結果、外壁に設置することにした。これが好評



2階にはサウナ、露天風呂を備えている。バケツ1杯の天日塩を入れた塩風呂も名物。



優雅に泳ぐ大きな鯉が、共栄温泉の新たな目印に。写真を撮ってインスタで紹介してくれる人も多い。



廣島健司さん(左)とご家族のみなさん。「今後もできる限り、お客さんに喜ばれることをしていきたいです」

で、通りがかりの大人も子どもも「大きな鯉が泳いでいる!」と注目を集め、写真スポットの誕生となった。

女湯には2025年にモザイクタイル画を設置。男湯とうって変わり、花を描いた優しい絵柄を選んだ。

銭湯には珍しい2階建て。1階の浴室は2階まで吹き抜けの大空間で、白いタイルが光を反射し、広さを際立たせる。様々なイベントも開催しており、男湯が会場になれば、女性も北斎のモザイクタイル画を見ることができる。

DATA 所在地:大阪府池田市豊島北2-4-4
 定休日:金曜日
 営業時間:15:00~24:00
 料金:大人600円、中人200円、小人100円
 ※別料金で貸しタオルあり
 サウナ100円(バスタオル付き)

自らデザインし理想のお風呂を実現！

タイルの施工事例を眺めていたら、1件のお風呂に目が留まった。木製の窓枠にステンドグラス、全体を落ち着いた緑色系のモザイクタイルで覆った空間で、床にはパターン張りが施されている。クラシカルな雰囲気から、老舗旅館か、明治時代の洋館か、と思いきや、なんと個人宅のリフォームしたお風呂だという。施主の女性が自らタイルを選び、デザインパターンを作成。パターンは複数作成した中から選んだそうだ。タイル好きの方に違いないが、参考にしたお風呂があるのだろうか、いろいろと聞いてみたくなる。世界に一つだけのお風呂で、毎日が贅沢な気分を過ごせそうだ。



ニッチの部分も隙間なくタイルが張られているのにも注目。



こだんみほさん個展『タイルのようでタイルじゃない』 銭湯のタイルがアート作品に

2月3日(火)～9日(月)、銀座画廊・美の起源にて、こだんみほさんの個展が開催された。こだんさんは、実在する銭湯のタイルをレジン(樹脂)を用いた独自技法で再現し、作品を制作している。細やかにタイルが描かれ、釉薬のつやつやとした輝き、とろりとした質感も表現。タイルへの愛情こそと思わせる完成度の高さにうなってしまう。作品の一つひとつには、モチーフとした銭湯の名前が書かれている。この情報もありがたく、実際のタイルを見に行きたくなる。残念ながら廃業してしまった銭湯もあり、作品は記録的価値も併せ持つ。

こだんさんのウェブサイト「懐古小路」では作品の直販や注文制作を受付。憧れのタイルを手元に置いて愛でることができる。



番台(大和温泉)
(縦197×横283、額込み358×460)



天水湯
(縦120×横120、額込み200×200)



刈谷浴場・玄関
※廃業(建物は現存)
(縦570×横450、額込み834×500)

タイルは語る

—あの日の記憶・創造のカケラ—

開催中～5月24日(日)まで

2月11日(水・祝)よりスタートした特別展示では、新収蔵品をはじめ、これまで展示する機会の少なかったレスキュータイル(解体現場などから救い出されたタイルの断片)、また作家によるタイル壁画の断片、モザイク作品を紹介。タイルが人々の暮らしの中でどのように息づいていたのかを追体験できる。



展示室では鑑賞ガイドを配布。
ガイドを片手に巡るのもおすすめ!



展示の見どころ

当館には、開館以前より地元有志によって収集されてきた資料を含め、1万点を超える資料が収蔵されている。本展ではその中でも、かつて建物に施工されていたタイルの断片を中心に焦点を当てている。銭湯や浴槽など生活に身近な場所に用いられていたものから、建築家の今井兼次や作家の脇田和が意匠を凝らした作家性の高い施工タイルまで、多様な資料を紹介するものである。

タイルの断片については、実物資料とともに施工当時の写真を掲示している。写真と見比べながら、当時の空間に思いを巡らせるのも本展の醍醐味の一つである。

会場では、タイルを組み合わせて絵や模様を表現したモザイクアートと、その断片を数多く出展している。ひと口にモザイクアートといっても、用いられるタイルの種類や形状、色彩、並べ方の違いによって、その印象は大きく異なる。展示室を巡ることで、さまざまな表情をもつモザイクアートを見ることができるのも、本展の特徴である。

また、多治見市出身のモザイク作家・^{そねけん}曾根研の新収蔵作品にも注目いただきたい。曾根氏はタイルに限らず、ガラスや陶片など多様な素材を用いて数多くのモザイク作品を手がけてきた作家であり、当館でもこれまで度々展示で紹介してきた。今回展示している《warped puzzle》は、タイルを多用した大型作品である。素材の重なりや構成の美しさをぜひ会場で体感していただきたい。

(学芸員・服部真歩)



(左)モザイクタイルアート(富士山)/1950年以降
(右)モザイクタイルアート(駆けている馬と武士)
旧 昭洋アート社(現 昭洋商事株式会社)/1950年-1990年頃



《昼と夜の対話》部分
旧ホテルナゴヤキャッスル
(現 エスパシオナゴヤキャッスル、愛知県名古屋市)ロビーモザイク壁画
デザイン:脇田和/制作:脇田和、近代モザイク社/1969年



《warped puzzle》曾根研/2017年

*すべて多治見市モザイクタイルミュージアム蔵

聴竹居倶楽部 第3回企画展～多治見市モザイクタイルミュージアム特別展示開催記念～ 「藤焼 展観の会」

前回の特別展示「山内逸三と藤井厚二ー聴竹居で育まれたものたち」を記念して、聴竹居で「藤焼」を設える企画展が開催される。20日には、特別展示を監修した加藤郁美氏、当館学芸員が登壇するシンポジウムも行われる。

会 期: 3月17日(火)～29日(日)
観覧時間: (完全入替制)* 定員は各回20名
10:00～11:00、11:15～12:15、13:30～14:30、14:45～15:45
*申込、詳細は聴竹居の公式HPを参照のこと。